

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは6月30日（月）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		6月27日現在	7月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	144.65	138.0	～ 148.0	145.0
	レンジ内ながらもマクロ情勢が徐々に悪化する中で下値を探る展開を想定				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.172	1.13	～ 1.19	1.16
	ユーロ・円 (円)	169.48	158.0	～ 174.0	168.2
	対米関税交渉が軟着陸すれば、ユーロは堅調推移か				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.372	1.34	～ 1.39	1.32
	ポンド・円 (円)	198.47	192.0	～ 202.0	191.4
	8月利下げが視野に入らる中で、リスクオン一服から対ドル、対円で上値重い				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	94.47	89.0	～ 97.0	93.0
	NZドル・円 (円)	87.61	84.0	～ 90.0	87.0
	豪中銀が7月追加利下げに踏み切れば、豪ドルは一時下落も				
株式 相場	日経平均 (円)	40,151	37,000	～ 42,000	39,000
	心理的節目の4万円近辺で推移する中、利益確定売りが出やすさそう				
	NYダウ (ドル)	43,819	40,000	～ 45,000	43,500
	利益確定売りによる小幅下落を想定				
長期 金利	日本 (%)	1.429	1.20	～ 1.50	1.30
	関税交渉がベストシナリオの結果にはならないことで長期金利は低下か				
	米国 (%)	4.277	4.10	～ 4.60	4.30
	やや上昇するのがメインシナリオだが、この水準が定着する可能性も				

◆ 今月の注目ポイント

米国雇用情勢次第で早期利下げが視野に

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
政治	◎	【対米関税交渉アップデート】日本の自動車関税への25%の上乗せ関税の可能性がトランプ米大統領から示唆されるなど各国とも相応の関税を課される見通しとなっている。不透明感の解消につながる一方で、徐々に景気へのネガティブインパクトが意識される展開となろう。
		【参院選(20日)】結果を受けて消費税減税の議論が浮上するようであれば日本の財政懸念が高まる。足下で超長期債市場の混乱は一服しているものの、格下げリスク含めて再び混乱が生じる可能性がある。
金融政策	○	【FOMC(30日)】関税のインフレへの影響を見極めての利下げがFRB高官のコンセンサス。一方、ウォーラー理事やボウマン副議長は雇用情勢を懸念し、早期利下げの可能性も視野に入れている。7/3雇用統計が急速に悪化すれば、一気に7月利下げの声が高まろう。
		【日銀金融政策決定会合(31日)】足もとは関税影響の見極めが困難であり、追加利上げに慎重な見方が強まっている。追加利上げに対する植田日銀総裁のスタンスが注目される。

◆ アジア通貨見通し

	6月27日現在	7月の予想 (月末値)		
人民元・円	20.17	19.08	～ 20.70	20.40
バーツ・円	4.437	4.20	～ 4.60	4.40
ルピア・円	0.893	0.84	～ 0.92	0.91

◆ 今月の重要日程

1日(火) 日 日銀短観	15日(火) 中 6月生産・小売・投資
1日(火) 米 6月ISM製造業景況指数	17日(木) 米 6月小売売上高
3日(木) 米 6月雇用統計	20日(日) 日 参院選
3日(木) 米 6月ISMサービス景況指数	30日(水) 米 4-6月GDP(速報)
9日(水) 米 米連邦準備制度理事会(FOMC)の政策決定会合	30日(水) 米 FOMC
15日(火) 米 6月CPI	31日(木) 日 日銀金融政策決定会合

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

1

◎注意事項をよくお読み下さい

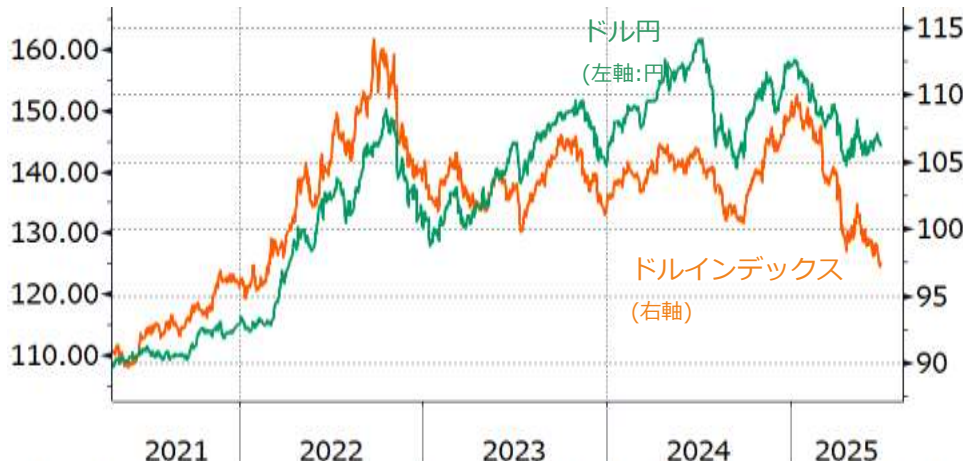
2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

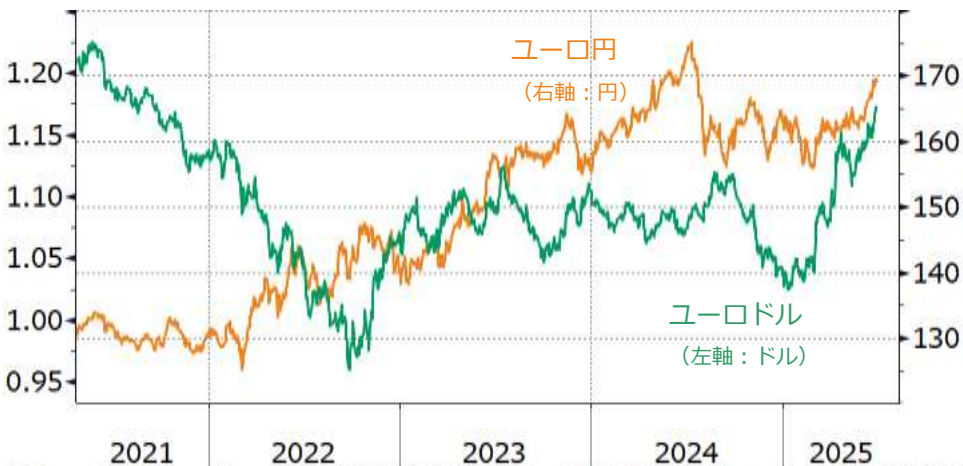
138.00 – 148.00円

レンジ内ながらもマクロ情勢が徐々に悪化する中で下値を探る展開を想定

6月のドル円相場は振れは出たものの、4月以降のレンジ内である142-148円で推移した。月初はまちまちな経済指標に方向感出にくい展開であったが、米中の通商交渉進展期待もあり徐々に戻りを試す。しかし、米国物価関連指標の落ち着きもありドル円の上昇も一服。イスラエルによるイラン核施設攻撃を契機とした中東情勢の悪化は当初リスク回避の円買いの動きを誘発したが、徐々に原油高による日本の貿易赤字に焦点が集まり、円売り材料に。米国によるイラン核施設攻撃を受けて、原油高が進行する中、一時148円台にドル円が上昇する場面も見られた。その後は更なるエスカレートもなく、リスク回避の動きが一服し、ドル円も反落。継続受給者数の増加もあり米雇用の悪化も焦点となり、ドル円の上値を抑えた。

7月のドル円は下落を予想。独立記念日を控えて、減税法案がまとまる可能性はあるが米国株が最高値を更新するなかで追加的なリスクオンの材料とはなりにくいであろう。FRB高官の大勢は関税影響を見極めての下下げを検討しており、7月の早期利下げの可能性は低い。一方、雇用情勢を含めたマクロ情勢が徐々に悪化することが予想され、ドル円には重石となろう。7月のドル円は5年連続で円高となっており、季節的にも円高になりやすい。

ユーロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.13 – 1.19ドル

ユーロ円

158.00 – 174.00円

対米関税交渉が軟着陸すれば、ユーロは堅調推移か

6月のユーロは、対ドルと対円ともに、ほとんど一本調子で上昇を続けた。13日以降の中東情勢が緊迫化した場面では、有事のドル買いが優勢となってユーロが弱含む場面もあったが、イスラエルとイランの停戦が伝わるとユーロの買い戻しが進み、月末にかけてユーロドルは1.17ドルに到達する場面があった。ECBによる利下げサイクルの終了が意識されるなか、米関税に対する懸念が強まって以降の、米ドル離れの受け皿としてのユーロ買いの地合いが今後も継続した。

7月のユーロは、9日に期限を迎える米相互関税一時停止措置について、期限前に貿易協定合意となる、もしくは一時停止措置の延長となる場合は、対ドル・対円ともに堅調な推移を見込む。特に、合意締結の場合は、6月ECB会合を持っての利下げ打ち止め観測が高まってユーロ買いの地合いが強まろう。一方で、関税合意に至らず実際に追加関税が適用され、それに対して報復を行うような状況となれば、景気減速懸念がユーロに対して重しとなることが想定される。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

ポンドドル

1.34 – 1.39ドル

ポンド円

192.00 – 202.00円

8月利下げが視野に入中で、リスクオン一服から対ドル、対円で上値重い

6月のポンド相場は、対円・対ドルで堅調に推移した。英国中銀が総じて利下げを急がない姿勢を示したほか、経済指標も総じて底堅く推移したことで、堅調な流れが継続した。対円では、株価がグローバルに堅調に推移するリスクオンの環境下、年初来の高値水準まで上昇した。対ドルではドル安の流れが顕著であり、2022年来の水準まで上昇。ドル資産からの資金逃避先として英国資産が買われていた側面もあるとみられる。

7月の英ポンド相場は対ドル、対円で下値模索の展開を予想する。6月にかけて堅調に推移したものの、英国経済は陰りがみられている。英国中銀のベイリー総裁は、英国企業が雇用税の引き上げに対して、価格を引き上げるのではなく、雇用や賃金の削減で対応している証拠が増えていると述べている。現時点で早期利下げの示唆はないものの、経済指標を確認する過程で徐々に利下げが検討される可能性が高い。8月利下げが視野に入れば英ポンドは売られやすくなるであろう。最高値圏にある株価の調整も英ポンド相場反転のきっかけとなる。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円

89.00 – 97.00円

NZドル円

84.00 – 90.00円

豪中銀が7月追加利下げに踏み切れば、豪ドルは一時下落も

6月のオセアニア通貨は対ドル・対円ともに緩やかに上昇した。中東情勢に対する懸念が高まった局面では上値重く推移したものの、地政学リスク後退を受けて24日以降は豪ドルの買い戻しが進んだ格好だ。ただし、ユーロなど他の通貨に対してはややアンダーパフォームしている。これは、豪州は資源輸出国ゆえに米関税政策による世界経済減速の影響を大きく受けやすいこと、4日公表の豪GDPや19日公表の豪雇用統計が市場予想を下振れ、豪中銀による7月の利下げ観測が高まっていることなどが大きな要因だろう。

7月のオセアニア通貨は、引き続き堅調推移が想定されるが、豪中銀会合で利下げが決定されれば一時下落する局面もあろう。25日に公表された豪CPIも市場予想を下振れており、前回5月会合でややハト派的スタンスへの転換を見せた豪中銀が景気下支えのために今月追加利下げに踏み切っても不思議ではない。市場も7月利下げを概ね織り込んではいいるが、実際に利下げ決定となれば直後に豪ドルの下落余地があろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

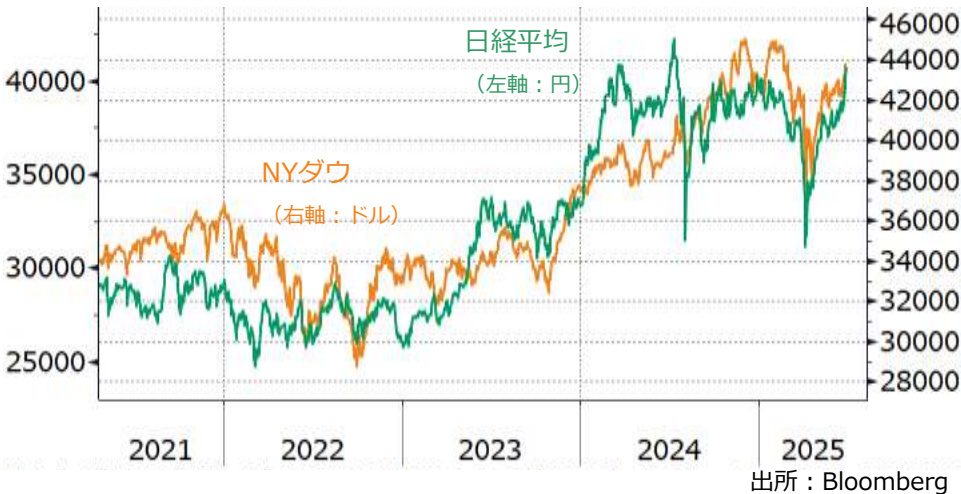
2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

37,000 – 42,000円

心理的節目の4万円近辺で推移する中、利益確定売りが出やすさろう

ハイテク株の過度に割安なバリュエーションの修正が指数上昇をけん引してきたため、日経平均株価は高値圏にあるものの、過熱感は見受けられない。もっとも、心理的節目の4万円近辺で推移する中では、利益確定売りが出やすく、徐々に上値が重くなることが想定される。特に米国との相互関税は7月9日に期限を迎えるため、同日に向けては、この動きが強まる可能性がある。仮に期限延長が実現するのであれば、4万円台で推移する可能性もある。

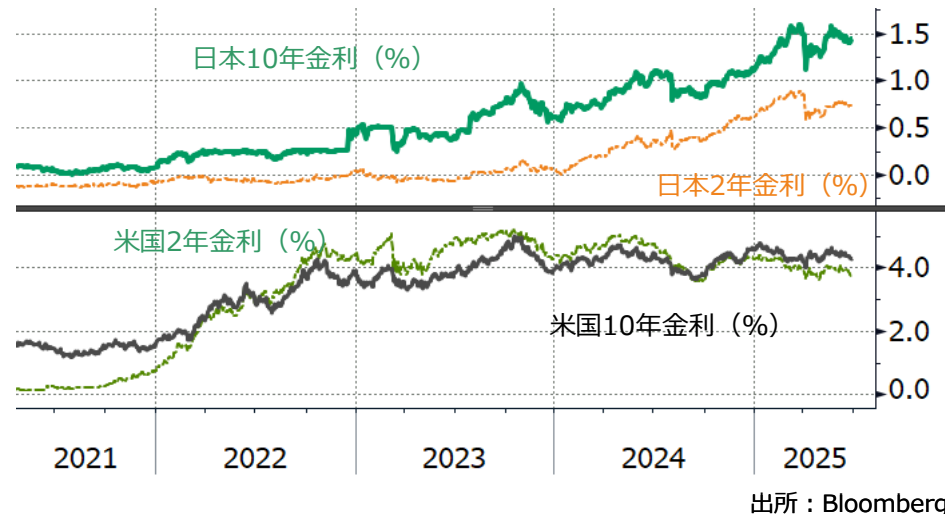
NYダウ

40,000 – 45,000ドル

利益確定売りによる小幅下落を想定

ハイテク株の過度に割安なバリュエーションの修正が指数上昇をけん引してきたため、米国株は高値圏にあるものの過熱感は見受けられない。もっとも、7月下旬にかけて米国企業の決算発表が予定されている点には留意。米インフレ率が想定ほど加速していないため、企業が一定程度関税のコストを引き受けている可能性が高く、決算が低調な内容となれば、利益確定売りを加速させやい。ただし、同時にFRBの早期利下げが正当化される場合、下落幅は限定的となる。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

1.20 – 1.50%

関税交渉がベストシナリオの結果にはならないことで長期金利は低下か

日米交渉は米国時間7月8日が期限となり、合意できなければ9日から相互関税の上乗せ分が発動される。現状では日米政府が合意する兆しは見えておらず、悪ければ上乗せ関税がそのまま発動、良くて交渉期限の延長といった場合が想定される。いずれにしても、日銀が景気を慎重に点検しなければならない期間が長期化することになり、市場の利上げ想定が後ずれすることになれば、長期金利は低下しそうだ。

米国債10年

4.10 – 4.60%

やや上昇するのがメインシナリオだが、この水準が定着する可能性も

米金利は4.3%～4.4%程度を妥当値とみている。足元の水準は、FRBの早期利下げ期待も相まって、妥当値をやや下回っているが、当社では9月利下げをメインシナリオとしており、期待はやや行き過ぎとみている。従って、現時点では、妥当値への回帰を想定するが、仮に夏場にかけてインフレ率が再加速しない場合、4.2%台が定着する可能性もあろう。この場合は、企業が関税コストを一定程度負担している可能性があり、FRBの利下げも正当化されやすさろう。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

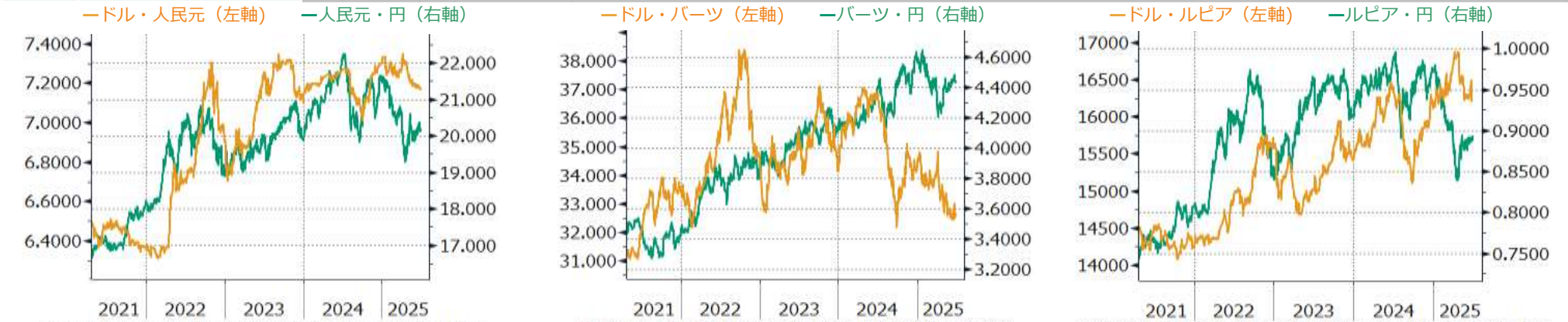
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		7月の予想			見通し
中国	人民元/円	19.08	～	20.70	市場予想に反して中国景気は底堅く、ドル安元高推移が。 中国の経済指標は景気後退を示唆する内容ではないことは元高要因だ。例えば内需は、補助金など財政出動によって堅調な推移が続く（小売売上高_前年比:5月+6.4%、6月+5.1%）。一方で、外需は5月の対外輸出を見ると前年比+4.9%と伸びは減速した。注目したいのは対米輸出が同▲34.4%と大幅に低下したことだ。徐々に米中貿易摩擦の影響が経済指標にも表れ始めている。しかし中国はすでにASEANなど米国以外の貿易国へ移行していることから、中国景気は後退ではなく鈍化に留まるとの見方が多い。中東情勢悪化に伴う「有事のドル買い」も一服しており、トレンドは元高を予想する。
	ドル/人民元	7.10	～	7.23	
タイ	バーツ/円	4.20	～	4.60	バーツは政治情勢の不透明感や利下げが意識される中で上値の重い展開を予想 6月のタイバーツは対円で底堅くする一方、対ドルでは横ばい圏での推移となった。タイ中央銀行は25日の会合で国内の政治情勢の不透明感や海外情勢の不確実性を背景に政策金利を1.75%に据え置いた。7月のタイバーツは政治情勢の混乱もあり上値の重い展開を予想。タイ中銀はタイバーツの不安定化が見られれば介入を示唆しており一定の下支えになるが、利下げ再開の思惑もくすぶる中で戻りも限定的であろう。
	ドル/バーツ	32.0	～	33.0	
インド	100ルピー/円	0.84	～	0.92	対ドル・対円ともに小幅なルピア高を予想 6月は中東情勢悪化に伴う「有事のドル買い」でルピア安に振れる局面もあったが、現在は水準を戻している。そのような中、インドネシア中銀は18日に政策金利を5.50%で据え置いた。インフレは政府目標の範囲内に落ち着いており、国内景気下支えのための利下げ余地はまだある。7月は、トランプ関税による先行き不透明感からルピア高基調ではあるものの、中間選挙を見据えたトランプ政権の現実路線への修正が見込まれ、小幅にルピア高を予想。
	ドル/ルピア	16,000	～	16,400	



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2025年						2026年						ポイント
		7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			
ドル円	レンジ	130	～	150	135	～	155	135	～	155	140	～	160	FRBによる金融緩和と日銀による追加利上げ観測を背景とした緩やかな日米金利差縮小の思惑でドル安円高基調継続も年度末にかけてドル安は一服。
	期末値	140			145			145			150			
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.20	1.08	～	1.20	1.08	～	1.20	1.10	～	1.20	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて急速にユーロ高となった。米国との関税交渉次第では、ECBの利下げサイクル終了がより意識されてユーロは先行きも堅調な推移となろう。
	期末値	1.16			1.14			1.14			1.16			
ユーロ円	レンジ	152	～	172	155	～	175	155	～	175	165	～	185	
	期末値	162			165			165			174			
ポンドドル	レンジ	1.34	～	1.44	1.30	～	1.40	1.30	～	1.40	1.25	～	1.35	英中銀は、雇用税のインフレへの影響を見極めつつ緩やかな利下げを想定。ドル資産離れを背景とした英ポンド買いの動きも徐々に一服。対円では高値圏での推移を想定。
	期末値	1.39			1.35			1.35			1.30			
ポンド円	レンジ	185	～	205	185	～	205	185	～	205	185	～	205	
	期末値	195			196			196			195			
ドル人民元	レンジ	7.10	～	7.25	7.10	～	7.25	7.05	～	7.20	7.05	～	7.20	足元、米中貿易摩擦への警戒感が薄れていることでやや元高に推移。中長期的には、米中貿易協議の進展や輸出規制の撤廃、中国景気の底堅さが示されれば元高基調は続くと予想。一方、24年9月末の7ドル/元割れは追加のイベントが必要だろう。
	期末値	7.15			7.15			7.10			7.10			
人民元円	レンジ	19.50	～	21.00	18.00	～	21.00	19.00	～	21.00	19.00	～	22.00	
	期末値	19.58			20.27			20.42			21.12			
豪ドル円	レンジ	84	～	96	86	～	98	90	～	102	93	～	105	豪中銀は2月に利下げ局面入りし、今後は漸進的な利下げパスが見込まれる。利下げによる経済回復期待から、次第に豪ドルは上昇局面入りか。
	期末値	90			92			96			99			
タイバーツ円	レンジ	4.10	～	4.70	4.20	～	4.80	4.20	～	4.80	4.30	～	4.90	政情不安が一巡すれば、観光業の回復、景気支援策から底堅く推移。
	期末値	4.40			4.50			4.50			4.60			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
7/1(火)	10年債入札	6月ISM製造業景況指数	(中) 6月製造業PMI	7/18(金)	6月消費者物価指数	6月住宅着工・許可件数	
	4-6月期日銀短観			7/21(月)	(海の日)		
7/2(水)		6月ADP雇用統計		7/22(火)			
7/3(木)	30年債入札	5月製造業受注		7/23(水)	40年債入札	20年債入札	
		5月貿易収支				6月中古住宅販売	
		6月ISM非製造業景況指数		7/24(木)		6月新築住宅販売	(欧) 7月PMI (速報値)
		6月雇用統計					(欧) ECB定例理事会
7/4(金)	5月家計調査	(独立記念日)		7/25(金)			(独) 7月IFO企業景況感指数
7/7(月)	5月毎月勤労統計 (速報)			7/28(月)		2年債入札	
7/8(火)	5年債入札	3年債入札	(豪) 準備銀行理事会			5年債入札	
	6月景気ウォッチャー調査			7/29(火)	2年債入札	7月消費者信頼感指数	
7/9(水)		10年債入札	(中) 6月CPI			7年債入札	
		FOMC議事要旨		7/30(水)		4-6月期GDP (速報値)	
7/10(木)	20年債入札	30年債入札				7月ADP雇用統計	
	6月企業物価指数					FOMC (結果発表)	
7/11(金)				7/31(木)	6月鉱工業生産	6月個人所得・消費支出	(中) 7月PMI
7/14(月)	5月機械受注				6月住宅着工件数		
7/15(火)		6月CPI	(中) 4-6月期GDP		植田日銀総裁定例会見		
		7月NY連銀製造業景気指数	(中) 6月生産・小売・投資				
			(独) 7月ZEW景気指数				
7/16(水)		6月PPI					
		米地区連銀経済報告					
7/17(木)	6月貿易統計	6月小売売上高					
		7月フィラデルフィア連銀製造業景気指数					



◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【6/13～19】

◎ 小売売上高が1年半ぶり伸び、政策効果で

中国国家统计局が発表した2025 年5 月の主要経済指標は、小売売上高が6.4%増の4 兆1,326 億元（約83 兆円）で、伸び率は4 月から1.3 ポイント上昇し、2023 年12 月以来で最も高い水準となった。消費財の買い替え支援策やインターネット通販セールキャンペーンなどが追い風になり、消費需要がさらに喚起された。鉱工業生産と固定資産投資はともに伸びが鈍化したものの、設備更新の促進策をはじめとする政策効果が続いた。一方、不動産分野は足踏み状態にある。今後の人口増加が予測されているアフリカ市場への進出にも動いている。

【6/20～26】

◎ 乗用車の新車販売を上方修正、補助金好感

中国の自動車業界団体は、乗用車を対象とした2025 年の国内新車販売が2,400 万台を超えるとの予測を示した。前年実績からは5%増える計算。自動車買い替えの補助金策による効果が新エネルギー車を中心に大きく出ていることを反映して、予測値を昨年末から70 万台引き上げた。輸出も1 割伸びるとの見方を維持した。米国の対中関税政策やロシアでの中国車の販売伸び悩みを悪材料に挙げた。

主要経済指標

項目	単位	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5
実質GDP成長率	%	-	-	4.6	-	-	5.4	-	-	5.4	-	-
消費者物価上昇率	%	0.5	0.6	0.4	0.3	0.2	0.1	0.5	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1
都市部調査失業率	%	5.2	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1	-	5.4	5.2	5.1	5.0
輸出額	10億ドル	300.2	308.3	303.4	308.9	311.9	335.7	324.6	215.0	313.6	315.5	316.1
輸入額	10億ドル	214.7	216.6	221.6	213.2	214.7	230.5	186.1	183.3	211.1	219.2	212.8
経常収支	100万ドル	-	-	260,144	-	-	423,919	-	-	165,400	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,256.4	3,288.2	3,316.4	3,261.1	3,265.9	3,202.4	3,209.0	3,227.2	3,240.7	3,281.7	3,285.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.26	7.15	7.08	7.11	7.21	7.28	7.31	7.28	7.25	7.30	7.21

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国最大のECセール「618商戦」

中国の大規模なECセールと言えば、アリババによる11月11日に開催される「ダブルイレブン（W11・独身の日）」を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、近年、「618商戦」は「ダブルイレブン」に並ぶ中国市場最大のECセールになっています。

「618商戦」とは、中国のEC大手の京東（JD.com）の創立記念日である6月18日に開催するECセールです。

元々は1日だけのイベントでしたが、現在ではアリババ系の天猫、拼多多（PDD）、抖音、小紅書など中国の主要なECプラットフォームが参入し、業界全体が盛り上がる大きなイベントになっています。

今年の「618商戦」は5月13日から6月18日まで開催され、昨年より1週間長かったです。各販売業者を合わせた今年の総取引額は9,000億元（約18兆2,000億円）に迫ったようです。このうち主要なECプラットフォームは前年比15.2%伸びました。販売上位の商品カテゴリーは家電、スキンケア、トイレタリー商品などです。

今年は政府、プラットフォーム、ブランドの3者による各種の補助金や優遇があったことで、値引き幅が大きくなり消費者を呼び込みました。調査によると、調査対象となった市民の約68%は「今年の618での消費支出を前年から増やした」と答えました。今年、各プラットフォームは異なる戦略を展開し、戦略の差別化が際立っています。

京東は配送スピードと信頼性を強みに、家電・IT製品を中心に「即日配送＋長期保証」など安心感を打ち出しました。PDDは低価格戦略を推進し、農村部や中小都市の消費者から大きな支持を得ています。抖音・小紅書では短尺動画とレビューによる“衝動買い”誘発型コンテンツが成果を上げました。

この為、今年は複数のプラットフォームを横断しながら検討・購入する消費者が増加しました。京東で性能を調べ、PDDで価格を確認し、小紅書でレビューを見て購入するという購買行動が一般的になっています。

以前、ECセール期間中に爆買いする人が多く、よく話題になりました。現在、雇用不安や賃金停滞、さらには不動産危機が続く中、消費習慣が変わり、個人消費の冷静化が顕著になっています。

SNS上では、「618は安いけど、将来の不安から財布のひもが固くなる」、「補助金がなくなると売上が落ちるのは明らか」といった声が散見し、消費者心理の慎重さが見られます。

618商戦の2025年の総取引額		
プラットフォーム別	金額（億元）	前年比増加率
総合EC	8,556	15.20%
クイックコマース	296	18.70%
共同購入	126	-9.10%

出所：星図数拠

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

- ◆2025年4月の景気、前月から改善
 - ・タイ中央銀行は2025年4月の経済報告書で、前月と比べて経済活動が改善したとの見方を示した。民間投資、製造業、サービス業が成長を支えた。
 - ・鉱工業生産指数は前年同月比2.17%上昇し、9カ月ぶりのプラスとなった。米国の相互関税で上乗せ部分が一時停止されたことにより、対米輸出向けの生産が増強されたことも影響した。民間投資は同16.5%増。機械・設備投資は加速したものの、建設投資は横ばいだった。外国人観光客の増加を受け、観光収入は増加した。一方、民間消費は同4.0%減と落ち込んだ。
- ◆2025年5月のCPI、前年同月比0.57%低下
 - ・タイ商務省が発表した2025年5月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前同月比0.57%低下した。2カ月連続のマイナスを記録した。野菜・果物や石油燃料が値下がりしたことが主な要因。
 - ・分野別では、食品・飲料が前年同月比0.89%上昇した一方、非食品が同1.51%低下した。

- 2025年1～5月のCPI平均値は前年同期比0.48%上回った。
- ◆2025年1-4月の外資規制業種、日経が首位
 - ・タイ商務省企業振興局（DBD）の統計によると、2025年1～4月の外資規制業種の事業認可件数は前年同期比43%増の363件だった。内訳は外国人事業ライセンス（FBL）87件、外国人事業証明書（FBC）が276件だった。投資総額は前年同期比5%増の578億6,000万バーツ（約2,600億円）だった。
 - ・日本からの投資が投資額・件数ともに首位だった（約173億バーツ、71件）。次いで、米国、シンガポール、中国、香港の順。
 - ◆2025年1-4月の自動車生産台数、前年同期比12%減
 - ・タイ工業連盟（FTI）によると、2025年1～4月の自動車生産台数は45万6,749台で、前年同期比12.0%減となった。内訳は乗用車が15万9,890台（同17.3%減）、商用車が29万6,859台（同8.8%減）となった。

主要経済指標

項目	単位	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5
実質GDP成長率	%	-	-	3.0	-	-	3.3	-	-	3.1	-	-
消費者物価上昇率	%	0.8	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.3	1.1	0.8	-0.2	-0.6
失業率	%	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	25,721	26,182	25,983	27,222	25,608	24,766	25,277	26,707	29,548	25,625	-
輸入額	100万ドル	27,094	25,917	25,589	28,016	25,833	24,777	27,157	24,719	28,575	28,946	-
経常収支	100万ドル	-227	1,349	1,205	960	1,229	2,046	2,657	5,490	2,328	-1,545	-
外貨準備高	10億ドル	230.6	235.7	243.0	238.6	237.5	237.1	242.1	244.8	245.3	256.8	257.6
主要政策金利	%	2.50	2.50	2.50	2.25	2.25	2.25	2.25	2.00	2.00	1.75	1.75
対ドル為替レート	バーツ	36.2	34.7	33.3	33.4	34.5	34.2	34.2	33.8	33.8	33.8	33.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利 出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/6/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年7月号)

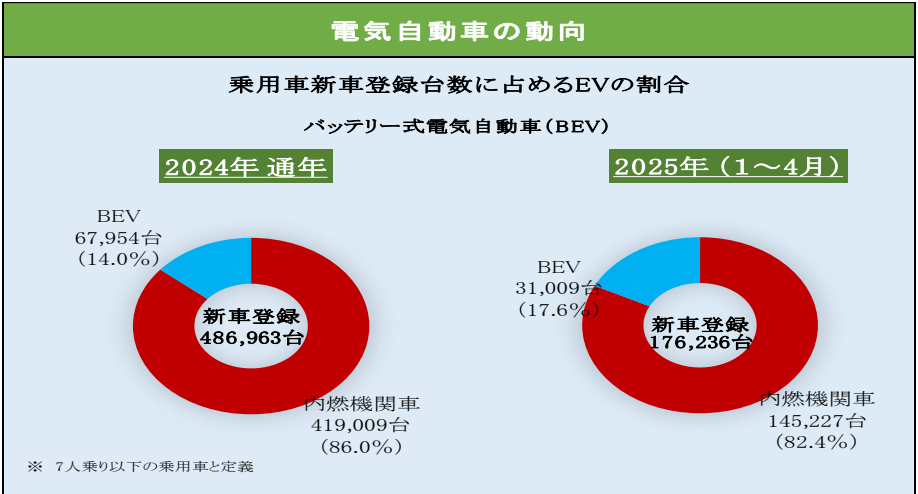
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

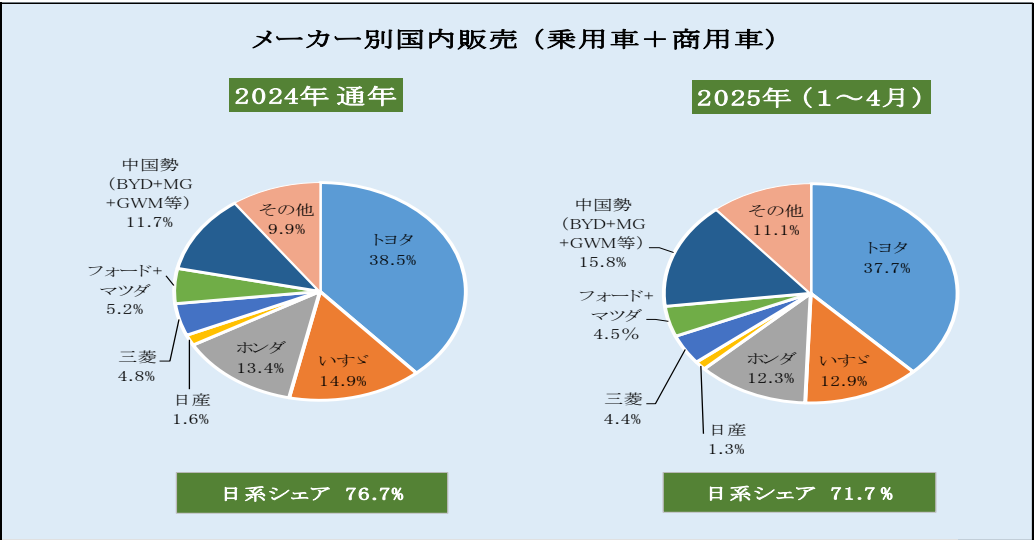
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2022年	2023年	2024年	2025年 (1～4月)	前年同期比 (%)	4月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	600,839	648,803	558,440	159,890	82.7	40,025
		商用車	1,282,676	1,192,883	910,557	296,859	91.2	64,225
		合計	1,883,515	1,841,686	1,468,997	456,749	88.0	104,250
	国内販売台数	乗用車	265,069	292,505	224,148	76,151	91.9	17,917
		商用車	584,319	483,275	348,527	124,235	97.4	29,276
		合計	849,388	775,780	572,675	200,386	95.2	47,193
	輸出台数		1,000,256	1,117,539	1,019,213	290,288	85.2	65,730
二輪	生産台数	2,015,940	2,120,738	1,887,208	688,549	102.8	157,091	
	国内販売台数	1,792,016	1,856,814	1,683,239	587,194	102.2	131,950	
	輸出台数	1,034,840	822,608	938,762	303,319	99.0	61,223	
【完成車輸出金額】			(百万パーツ)					
四輪			619,348	719,992	699,163	202,219	85.2	46,031
二輪			73,729	68,589	63,969	21,861	91.2	4,336

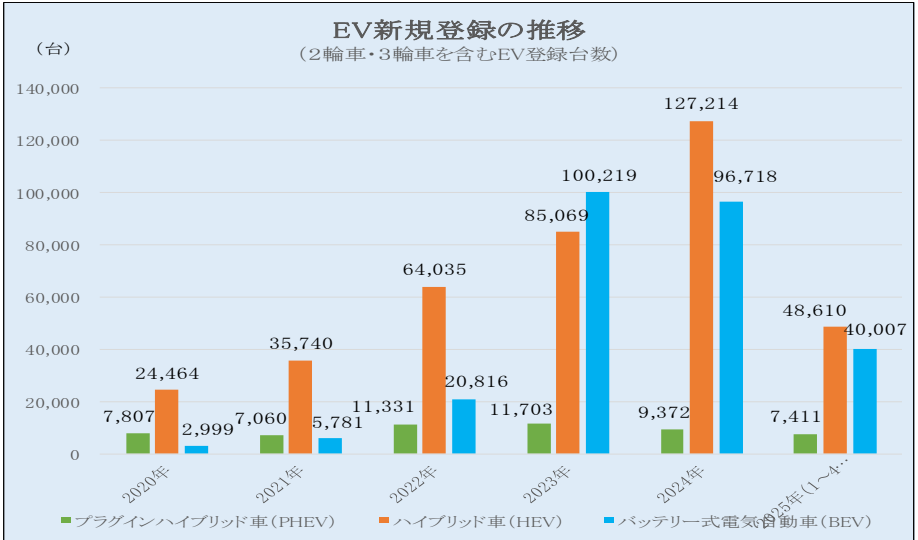
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局